研修Ⅱ　高松　「言語能力を伸ばし，表現することを楽しむ子を育てる日常の言語活動の充実」
「様子がよく分かる日記を書こう『じゅんじょを考えて』（２年）とつないで」

司会者　高・木太北部小　教諭
提案者　高・牟礼小　　教諭

1　提案の概要

（１）主張点の説明

①　作文教材で学んだ知識・技能を日記に生かす。

・　「会話」「手足をどう動かしたか」「体の変化」「他の人の様子」「顔の表情」「その気持ちの時にどんな行動をとったか」も順序を押さえて書くようにすると，様子がよく分かる文章になるということを学ぶ。

・　日々の日記で学んだことが書けたかどうか，自己評価して書く。

②　わずかな時間を活用し，よい表現にふれたり，表現したりする。

・　国語の授業だけではなく，さまざまな機会をとらえて，言葉にふれ，表現できるようにする。そして，ほめて，全員の言語能力の向上を図る。

（２）実践発表

①　わずかな時間を活用し，よい表現にふれたり，表現したりする活動の工夫について

ア　始業前のミニ読書タイム……毎日始業５分前に読書

イ　朝の会でのことわざ……教師の話でことわざの紹介

ウ　チャイムが合図の詩の朗読……詩集を持たせて音読し，２年で 63 の詩を覚えた。

エ　言葉への興味を引き出す帰りの会での熟語指導……一斉音読で漢字と語彙の力

オ　５分間限定の日記……連絡帳にその日の日記，５分間で何行書けたか自己評価

②　作文教材「じゅんじょを考えて」と連携した日記指導について

・　２年生の７月に「じゅんじょを考えて」という作文教材がある。この教材では，自分の行動の順序を押さえて書くということに加えて，自分や周囲の様子も入れて順序を押さえて書くということが重要である。自分の行動だけを書いた作文と，「自分の身体の変化」や「他の人の様子」「会話」「顔」等詳しく書いた作文を比べることで，様子がよく分かる文章になるという学習をした。その後，実際に自分が作文を書くときも，それらの項目を挙げて，書けたかどうか自己評価させた。

・　日々の日記でも，同じ項目が書けたかどうかを自己評価して，書けるようにした。

（３）演習

①　上記②にある２つの作文の違いを見つけて線を引き，その線を引いたところがあるのとないのとではどう違うかを考えた。

②　短い作文の最後の「うれしかったです。」を様子がよく分かる文章に書き直した。

2　まとめにかえて

・　上記の取り組みを２年間計画的に続けることで，子どもたちの言語能力は伸び，書くことを喜びとするようになった。国語の授業だけでなく，さまざまな機会をとらえて言葉にふれ，ほめることは，全員の言語能力の向上を図ることができると実感した。わずかな時間を活用することで１日約 25 分間生み出すことができ，それを毎日行うので，効果が大きかった。

言語能力を伸ばし，表現することを楽しむ子を育てる日常の言語活動の充実
様子がよく分かる日記を書こう－「じゅんじょを考えて」とつないで

主張点

1　作文教材で学んだ知識・技能を日記に生かす

①　「会話」「手足をどう動かしたか」「体の変化」「他の人の様子」「顔の表情」「その気持ちの時にどんな行動をとったか」も順序を押さえて書くようにすると，様子がよく分かる文章になるということを学ぶ。

②　日々の日記で学んだことが書けたかどうか，自己評価して書く。

2　わずかな時間を活用し，よい表現にふれたり，表現したりする

①　国語の授業だけではなく，さまざまな機会を捉えて，言葉にふれ，表現できるようにする。そして，ほめて，全員の言語能力の向上を図る。

1　わずかな時間を活用し，よい表現にふれたり，表現したりする活動の工夫について

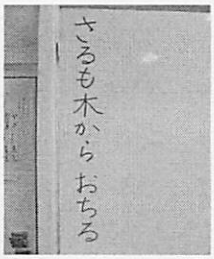
日本語の正しい使い方を習得するために，良質な作品を読み，書くことはとても重要である。そこで時間をうまく活用する工夫を行い，毎日少しずつでも積み重ねていくことにした。

(1)始業前のミニ読書タイム

私のクラスでは，始業時間の５分前に本を読むようにしている。短い時間ではあるが毎日のことなので，読書に親しむことができた。また，全員が５分前に本を読めていたら，その日のどこかの時間に本の読み聞かせをするという約束を子どもたちとした。すると，お互いに声を掛け合って鞄の片付けを早くし，読み聞かせを楽しみにするようになった。本校では，図書室で借りた本の数で読書級を設定しており，22人中17人がその最高の級（百冊以上）になっている。

(2)朝の会でのことわざ

ことわざは，日本人の心を伝えるとともに，そのユーモアや戒めに子どもたちも興味を示す教材である。しかも，使われている言葉を理解することで，語彙力を増やすことができる。連絡事項の伝達になりがちな朝の会での教師の話に，ことわざの紹介を組み入れるようにしたところ，子どもたちは心待ちにするようになった。そして，学習したことわざを日常のいろいろな場面で使うようになった。



<黒板に書いて１日中掲示したことわざ>

(3)チャイムが合図の詩の朗読

休み時間終了のチャイムが鳴ったと同時に，子どもたちは詩集を一斉に音読する。詩集は，季節や教材に合わせた詩を選んで印刷したものを，一人一人に持たせている。この実践で，２年間に自然に覚えた詩の数は63になる。２年生の12月に，「かんじたことを」という詩をつくる学習をした時，とまどうことなく技法を用いて，全員が喜んで詩をつくる

ことができた。多くの詩を覚えているからできたのだと感じた。

(4) 言葉への興味を引き出す帰りの会での熟語指導

休み時間を利用して，小黒板に子どもたちは熟語を書く。それを帰りの会で全員の前に示し，一斉音読をしている。漢字の力の定着と，語彙力を増やすことがねらいだ。学習した漢字で読み方を習っていない熟語を書こうと，家庭で進んで調べてくるようになり，自らの知識欲を満たしている。

(5) 5分間限定の日記

5時間目始まりのチャイムを合図に，子どもたちは連絡帳にその日の日記を書く。連絡事項を書くことと切り離すことで，子どもたちは，5分間で何行書けたかを毎日自己評価し，意欲的に書くようになった。その日のできごとに合わせて，書けそうな題材を示すことで，「遊んだこと」以外の題材にも目を向けて，日記を書くことができるようになってきた。また，「会話」「顔」「手・足」「音」「味」「におい」などのポイントを提示してその言葉を入れるように指導したところ，表現を豊かにすることができた。

2　作文教材「じゅんじょを考えて」と連携した日記指導について

2年生の7月に「じゅんじょを考えて」という作文教材がある。この教材では，自分の行動の順序を押さえて書くということに加えて，自分や周囲の様子も入れて順序を押さえて書くということが重要であると考えた。そこで，「手足をどう動かしたか」「体の変化」「他の人の様子」「会話」「顔」「その気持ちの時にどんな行動をとったか」も順序を押さえて書くようにすると，様子がよく分かる文章になるという学習を構成した。

<資料>使用した教材

先週の　土曜日、ぼくは、じどう会の　こうえんそうじに　行きました。お父さんと　お姉ちゃんと　いっしょでした。こうえんには、ひろきさんも　来て　いました。

そうじは、草むしりから　はじめました。ぼくは、ぐん手を　はめて、のびた　草を　どんどん　とりました。すぐに、あせが　出て　きました。ぬけない　草は、お父さんが　小さいかまで　かりました。お姉ちゃんは、とった草を　竹ぼうきで　はいて　あつめました。

それから、ぶらんこや　すべり台の　まわりの　ごみを　かたづけました。

時間ぐらいで、こうえんそうじは　おわりました。草や　ごみの　ふくろが　いっぱいできました。はん長さんが、

「よく　がんばったね」

と　言って、ジュースを　くれました。

ぼくは、ちょっと　つかれたけれど、きれいに　なって　気もちが　いいなと　思いました。

ぼくは、思いっきり　りょう手をのばして、のびをしました。そして、お父さんとお姉ちゃんと目を合わせてにっこりしました。

先週の　土曜日、ぼくは、じどう会の　こうえんそうじに　行きました。お父さんと　お姉ちゃんと　いっしょでした。こうえんには、ひろきさんも　来て　いました。

そうじは、草むしりから　はじめました。

それから、ぶらんこや　すべり台の　まわりの　ごみを　かたづけました。

時間ぐらいで、こうえんそうじは　おわりました。

はん長さんが、ジュースを　くれました。

ぼくは、ちょっと　つかれたけれど、きれいに　なって　気もちが　いいなと　思いました。

一　ちがうところに　せんを　ひきましょう。

二　その　せんを　ひいたところが　あるのと　ないのとでは、どうちがいますか。

三　二つの　作文とも　したことを　じゅんに　思い出して　書いています。でも、上の作文の　ほうが　よくわかるのは　なにを　書いているから　でしょう

① 上の文章は、「自分の体の変化」や「他の人の様子」も順序を押さえて書いた文章である。下の文章は、子どもの作文にありがちな「自分の行動」だけを順序よく書いた文章である。まず、二つの作文を比べさせる学習をした。

② 上の文章は、教科書の作文にはない文を最後に付け加えている。そして、この文がある場合とない場合を比べさせた。「きれいになって気持ちがいいな。」と感じたことを書くだけでなく、その気持ちの時にとった行動も一緒に書いた方が、様子がよく分かる文章になるということを、子どもたちは学ぶことができた。

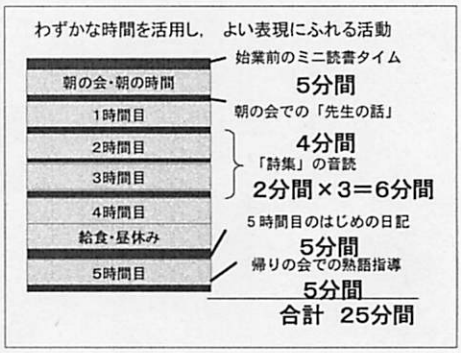
③　その後，実際に書く時にも，それらの項目を挙げて，書けたかどうか自己評価できるようにした。さらに，一度だけの学習では定着しないと考え，日々の日記でもそれらの項目を書けたかどうか自己評価して書けるようにした。この継続によって，今では多くの子の日記が，様子がよく分かる表現になり，実を結んでいる。

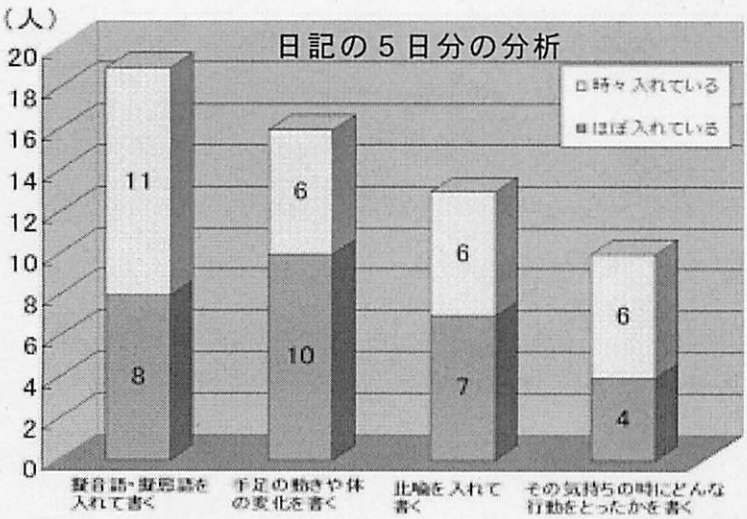
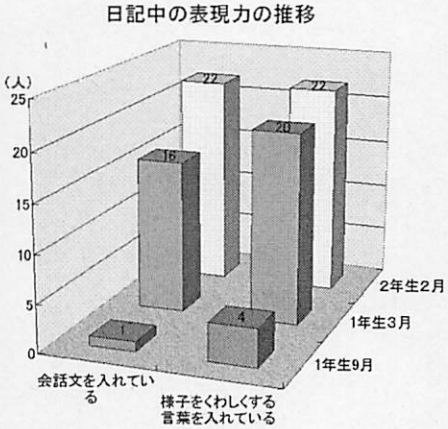
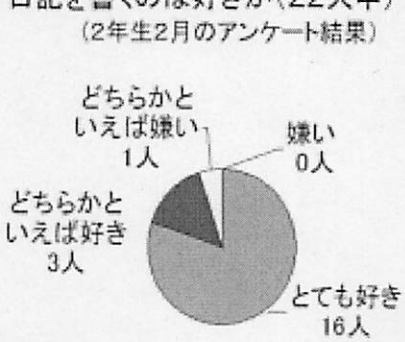
☆日記に　つぎのようなことばを　二つは入れるようにしましょう。書けたことばには、○をしましょう。

	会話	手足をどうごかしたか	体のへんか	ほかの人のようす	顔のひょうじょう	その気もちのときにどんなこうどうをとったか

3　まとめにかえて

このような取組みを２年間計画的に続けることで，子どもたちの言語能力は伸び，書くことを喜びとするようになった。国語の授業だけではなく，さまざまな機会を捉えて，言葉にふれ，ほめることで，全員の言語能力の向上を図ることができると実感した。



教える内容が増えたことで，言語活動を１時間の授業として設定し，継続して行うことはなかなか難しい。しかし，上記の表の通り，わずかな時間を活用することで，１日約２５分間，生み出すことができた。これを毎日行うのであるから，その効果は大きかった。

実践を数値で振り返るために２年生の２月にアンケートをとったり，日記の５日分を分析したり，１年次と比較したりした。その結果は以下の通りである。